

九州周遊 建築散歩

第四回(8月9日)
秋吉台・秋芳洞

九州でも建築でもないけれど 楽しく散歩が出来ればいいでしょう。

第4回目の「九州周遊建築散歩」は、北九州近辺で自然を楽しめる場所として、秋吉台・秋芳洞を選んでみました。カルスト台地や鍾乳洞は建築とは直接関係ないかもしれませんが、壮大な自然に接することによって、自然と人間、もしくは自然と建築の関係を考えるよい機会になるかもしれません。今回のテーマは少々こじつけ気味ですが、あまり深く考えずに、散歩のつもりで気楽に参加してみませんか？

秋吉台

溶けて出来る山はカルスト地形と呼ばれますが、秋吉台は日本の代表的カルスト地形です。

カルスト地形の自然要素は、ドリーネと呼ばれる窪地と、林立する石灰岩の岩、地下に広がる大洞窟です。カルストという言葉は、クロアチアの地中海に面した地方の地名で、岩の多い山という意味があるようです。古くから研究が行われ、溶食地形はカルスト地形と命名されました。



秋吉台には地獄の針の山を想像させることから、地獄台と地元の人に呼ばれる所があります。秋吉台でもっとも石灰岩柱の多い場所で、たいへん奇麗な所でもあります。また、ここはカレンフェルトの典型的な景観を示しています。



秋吉台の高空写真で、ドリーネがたくさん見えます。馬ころびと呼ばれる付近です。

秋芳洞

秋吉台の地下を流れる水は、長い年月をかけて少しずつ石灰岩を溶かし、巨大な空洞を作りました。誕生や床を流れる水は、さまざまな形をした石を育て、洞内を飾り立てています。

秋芳洞を造った地下の河川は、秋吉台とも密接な関係にあります。秋吉台に降った雨はドリーネの底の吸い込み穴から地下に流れ落ち、秋芳洞の水と合流します。だから秋吉台の地下には水道としての洞窟が網の目のように発達しています。



千畳敷は家ほどもある巨大な落石群が山になっており、秋芳洞でもっとも広い場所になっています。



百枚皿は秋芳洞を代表する洞窟生成物で、世界的にも類のない大規模なものです。池の数は、百枚以上ありますが、正確な数は分かっていません。

<写真・文章>

秋吉台科学博物館 <http://www.ymg.urban.ne.jp/home/akihaku/>

「九州周遊建築散歩」では次回以降も様々な地域の建築を散策します。分野や専門にかかわらず建築に興味がある方は是非ご連絡下さい。

連絡先：北九州大学国際環境工学部N331

代表：EA堤洋樹 (tutumi@env.kitakyu-u.ac.jp)

事務局：M1大野敦弘 (m3640101@hibikino.ne.jp)

次回予告 第5回は9月上旬に、日本の映画産業を変えたと言われるシネコン(見学予定：ワーナーマイカル戸畑)を裏側から見学したいと考えています。奮ってご参加ください。